

## Domaine Michel Gros ドメーヌ・ミシェル・グロ



1830年、グロ家はヴォーヌ・ロマネ村で開業する。

今日では、6代目のミシェル・グロが、先祖たちの仕事を受け継いで発展させている。

また、妹は Domaine AF Gros、弟は Domaine Gros Frère et Soeur、従妹は Domaine Anne Gros を経営し、彼らも同様、グロ家の家業を続けている。

情熱家であり、同時に厳しさをも持ち合わせるミシェル・グロは、ワイン造りに不断の手間をかける。畑仕事から瓶詰めに至るまで、各段階の技術を修得している。慎ましい性格の彼は、ワインを通じて自分を表現する。

寛大で、繊細でエレガントなワイン。その品質は常に一定している。

ミシェル・グロと彼を支える従業員たちは、ワイン造りにおける情熱と要求の高さを、皆様にご紹介します。

### 2015 Bourgogne Hautes Cotes de Nuits Rouge

#### ブルゴーニュ オート・コート・ド・ニュイ ルージュ ¥4,200

所有者： Michel Gros オート=コート（丘の上方）のぶどう畑もやはり、1885～1900年にかけてフランス全土を襲ったフィロクセラ禍によって全滅した。コート（丘の中腹から麓にかけて）はその後直ぐに植えかえられたが、オート=コートは1970年代になるまで復活しなかった。私の父、ジャン・グロはこのワインを復活させた先駆者の一人である。

私たちの畑はアルスナン村にある。この村はムザン川の渓谷の奥にあり、ニュイ=サン=ジョルジュから西に7km言ったところである。畑は南東向きの斜面にあって、標高は360～420mである。つまりコートの畑に比べて約100m高い。この標高差によって、収穫は約8日間遅くなる。

ぶどうの木は、各々の列の間に2.6mの幅をとって植えられている。棚の高さは1.8mに設定している。この方法だと、等高線のカーブに沿わせて、列毎に小さな段状にすることができる。各列の間には芝生を植え、剪定はコルドン・ピラテラル（T字形）式を採用している。

表土と下層土は3つの地層を含んでおり、標高がここより100m低いコート・ド・ボーヌのアロース=コルトンに見られる地層と全く同じ構成となっている。つまりこのことから、このワインが力強く男性的な特徴をもっていて、長熟性に非常に富むということが理解できる。

### 2013 Nuits St Georges Les Chalitots ニュイ・サン・ジョルジュ レ・シャリオ 参考上代¥8,300

畑の面積：0.82ha 所有者：GFA des ARBAUPINS

この畑の名前は「シャイク」(小石)に由来している。畑はニュイの町より南側、扇状の沖積地にあり、石がとても多い。表土は粘土質で石灰が少なく、シャイクや珪素が豊かに存在する。また、赤味がかかった一種のシレックス(火打石)がところどころに見られる。この土壌の性質はとても変わっているので、単独でキュベを造ることを試

みた。こうして出来たワインは素晴らしいミネラル感を持ち、一つのフルーツを思わせる非常にピュアな芳香を放つ。また、しっかりとした酸と強いコシを持ちあわせるため、長期熟成の潜在能力を豊かに感じさせるワインである。

### 2013 Vosne Romanee 1er Cru Clos des Reas

ヴォーヌ・ロマネ プルミエ・クリュ クロ・デ・レア 参考上代¥18,000

### 2014 Vosne Romanee 1er Cru Clos des Reas

ヴォーヌ・ロマネ プルミエ・クリュ クロ・デ・レア 参考上代¥18,000

畑の面積：2.12ha 所有者：GFA Jean GROS

この畑は私たちがモノポール（単独）で所有しており、1860年にアルフォンス・グロが購入したものである。ラベルにある挿絵は当時のものだ。つまりその頃から、私の祖先たちはこのワインを瓶詰めし、蔵元で販売していた。世代交代を経ながら、このラベルは次の名を掲げてきた。

・グロ・ゲノー・グロ・ルノド・ルイ・グロ・ジャン・グロ・そして1996年からはミシェル・グロである。

この畑を囲む三角形の壁は村の東側に伸びていて、その中腹には巨大な門が堂々と立っている。非常に古い小さな家が壁の北側の隅にあり、村役場の広場に面している。

クロ・デ・レアは、レアの谷から突き出た小さなふくらみの上にある。下層土はオリゴセーヌ期のコングロメラ・ソーモンで、泥灰土と混ざり合った石灰の塊が多く存在する。こういった特徴の土壌が起伏しているので、水捌けは素晴らしく良い。

このような泥灰土の畑から生まれるワインは、タンニンがしなやかで、エレガントな芳香を放つ。酸が比較的に弱いので、若いうちから楽しむことができる。しかし飲みやすいという印象によって判断を誤ってはならない。このワインは完璧なまでに均整がとれているため、実のところ10~15年にわたって果実味やフレッシュ感を保ち続ける。

#### 【2013年ヴィンテージについて】

2013年はまたしてもブルゴーニュのヴィニキュロンたちに手厳しい試練を与える年となりました。

醸造所に健康なブドウを持ち帰るためには、シーズン中、ベト病とウドンコ病との熾烈な戦いを強いられました。

5月という季節を迎えても月間通じて寒々とした雨に見舞われ、そのことが大きく起因して収穫が遅れました。私たちのドメーヌでは10月6日にヴォーヌ・ロマネの畑からブドウを摘み始め、17日にオート・コートで終えました。この年より遅い収穫年といえ、1978年まで記憶を遡らなければなりません。

開花後期の天候の崩れが原因で花振るいが多く見られ、殆ど全ての房がミルランダーシュとなって小さな粒を纏いました。そのため、平年と比べ収量は30~40パーセント落ち込みました。

しかし、このミルランダーシュこそがヴィンテージを救うことになったのです。

7月に暑い日が差した以外はパツとしなかった夏の不順な天候下でも、負担の少ない小ぶりのブドウ房はパーフェクトに熟していきくれました。

粒が小さく隙間があるミルランダーシュの房でなければ、収穫前に続いた数日の雷雨でボトリティス菌が蔓延し、やっと目の前にした収穫物が壊滅していたかもしれません。

そして、果汁の少ないミルランダーシュだからこそ実現した濃い色。結実不良により種が無かったり種のサイズが小さかったりすることが幸いした、タンニンの突出しないバランスがとれた自然の凝縮。成熟が遅れ、比較的冷涼な気象状況のもとでブドウが熟成の最終段階を遂げた為、誕生したワインは濃いフルーツのアロマを丸ごとフレッシュに蓄え、夫々のテロワールの個性をくっきりと描いています。酸のレベルが高いことはワインの長熟性を示し、一方、低いpHで証明されたこの高い酸味は、タンニンがすでに溶け込んでいるリッチなテクスチャに抱擁され、テイasting上ではさほど目立たないのです。結果として、2013年のワインはすでに誘惑的な魅力を呈し、ハーモニー、バランス、鮮烈な強さと緻密なアロマを持ち合わせています。ポテンシャルが高く、言うなれば1993年に類似する特徴があり、1993年といえば今日飲んでもお素晴らしい有望なヴィンテージなのです。

#### 【2014年ヴィンテージについて】

暑く乾いた気候に恵まれた春、ブドウ樹たちは例年よりも早く芽を吹き初め、3月末には快活に成長サイクルが始まりました。この良好なコンディションは6月末まで続き、早生の開花は6月第一週目に達成され、結実した小さな粒は日ごとに膨らみ、7月1日には房の原型が形成されるまでに至りました。その時の観測では、平均年と比べて2週間も早くブドウ樹の成長サイクルが進んでいました。

7月、8月はそれまでよりずっと涼しくなり、湿度も上がり、ブドウ樹の成長に歯止めがかかりました。それでも、8月末から9月にかけて、晴れた日が続いて暑い太陽の光が豊かに差し込み、ブドウの果実はこの恩恵に浴して十分に熟してくれました。

私たちのドメーヌでは、9月15日に収穫を開始しました。10月1日にオート・コートで完了するまで、最高のコンディションで行うことができました。

2014年の天候の推移は2011年にそっくりで、その自然の成り行きから、出来たワインに類似性が見受けられます。色が濃く、完熟した果実から得られたタンニンは初期の段階からワインに溶け込み、酸がそれほど強くないため口の中に含んだときの印象が丸く、丹精なアロマが、テロワールの個性を際立たせています。

総合的に見れば、バランスのとれたヴィンテージということが言えるでしょう。若いうちから飲みやすく、それでいて10年くらい熟成できるポテンシャルを持ち合わせています。

#### 【2015年ヴィンテージについて】

2015年はブルゴーニュの偉大な赤ワインを誕生させるに相応しい、栽培条件に恵まれた年でした。例年より10%も上回る豊富な日射量、気温も4、6、7月は2℃、8～9月にかけては1℃と過去平均を上回っていました。

3月から安定して乾燥した気候が続き、特に7月には炎天下となって、未熟な小さなブドウ果が大きく膨らんでいく成長が阻まれました。

そのような状況下、8月に幾度か訪れた俄か雨は水分補給の絶好のチャンスとなり、ブドウがストレスを感じずにそのまま成熟の過程を辿ってくれましたが、私たちが期待する粒の大きさに達するにはこの雨は時期的に遅すぎたのです。

雨量の少ない気候条件が起因して全体的に収量は少なくなりましたが、乾燥した気候下で育ったブドウだからこそ、ワインは素晴らしく凝縮しています。

まるで非の打ち所の無い、健全でパーフェクトに熟したブドウ。そのような美しい果実から醸されたタンニンは、たっぷり豊かなテクスチャに包まれています。

2015年のワインは、2005年、2010年の系列の酒質と考えられ、2000年代初頭の長熟性の高いヴィンテージにまた一つ比肩するものとなっています。